

## 【(4) 授業の展開】

### ②-2 「学習の流れのパターンを一定に決めている」

#### 《つまずきの背景》

- A 刺激の影響の受けやすさ、H 刺激の選択の困難さ、O 見通しを持つことの困難さ、  
Q 状況理解の困難さ、S こたわり

#### 《解説》

授業のパターンを一定にすることで、子どもは単元や学習内容が変わっても安心して授業に取り組むことができ、学習が進めやすくなります。

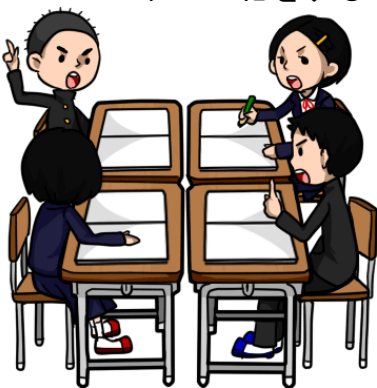
学級の中には、見通しが立たないと混乱してしまう子どもがいる場合があります。その際にはパターン化された活動が用意されているとストレスを感じることなく、本来持っている力を発揮できることにつながります。また、刺激の影響を受けやすい子どもや、不注意傾向がある子どもがいる場合にも、流れのパターンが一定だと、あとどれくらい頑張ればよいのかが分かり、安心して学習に取り組めます。

普段行っている授業のパターンを急に变えることは、子どもの混乱を招いてしまう可能性があるため、できるだけ避けることが大切です。また、どうしてもパターンを変えなければいけないときには、事前に予告しておく必要があります。

#### 【工夫点】

- ・授業を「自分の考えをまとめる」⇒「少人数で意見交換する」⇒「全体で話し合う」という流れにする。(小中高)
- ・解き方の確認、自力解決、定着のための練習問題というパターンを決める。(算数・数学)(小中高)
- ・「課題確認」⇒「読む」⇒「ワークシート」⇒「発表(話し合い)」⇒「まとめ」のパターン化をする。(国語)(小中高 工夫例 31)
- ・学習の流れのパターンの急な変更をできるだけ避ける。(小中高)

#### ◆工夫例 31 「『課題確認』⇒『読む』⇒『ワークシート』⇒『発表(話し合い)』⇒『まとめ』のパターン化をする(国語)」



大型テレビを活用したタイマー

#### 《小・中・高等学校》

学習活動をパターン化することにより、子どもは安心して学習に取り組むことができます。パターン化に当たっては、教科の特性に応じて一定の活動の型を作ることが大切です。それを繰り返していくことで、子どもたちは授業に見通しを持ち、安心して授業に臨むことにもなります。

各活動を行う際には、活動の始めと終わりを明確にするためにタイマー等を活用すると、子どもの見通しが立ちやすくなります。